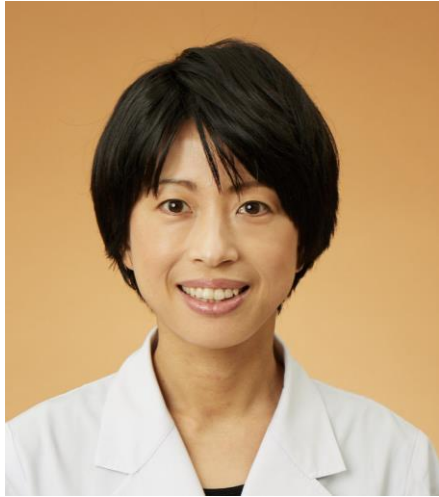
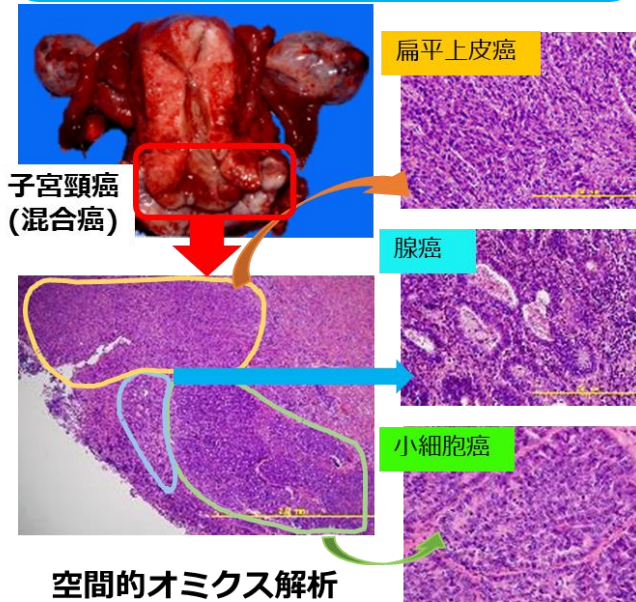


第44回 腫瘍病理セミナー (次世代北信がんプロFD講演会)

HPV専門の婦人科腫瘍医の立場からみる、 HPV感染症の特徴と最新の知見について



大阪大学免疫学
フロンティア研究センター
Wing lab 特任研究員
田口 歩



Zoomでの聴講歓迎!



空間的オミクス解析

<https://www.kanazawa-med.ac.jp/graduate/ganpro/gfd/20240902web.html>

2008年 東京大学医学部医学科 卒業
2015年 東京大学医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻修了
2016年 がん感染症センター 都立駒込病院 医員
2019年 東京大学医学部附属病院 女性外科 助教
2022年 現職 (国内留学中)

HPV関連癌は今やワクチンにより予防可能な癌である。しかし、日本をはじめとしてHPVワクチンの普及率は未だ十分とは言い難い。ワクチンの普及は喫緊の課題である中、HPVは代表的な癌原ウイルスであり、そのウイルス-宿主相互作用の解明は、ウイルス感染症や悪性腫瘍の理解に繋がることが期待される。

HPVは子宮頸部の基底層の細胞に感染し、年月をかけて子宮頸癌へと進展する。HPV感染は生殖年齢の女性の5-8割に認めるにも関わらずその多くは自然退縮し、ごく一部の患者さんにおいて子宮頸癌へと進展する。子宮頸癌への進展を規定する因子としてHPV側の因子と宿主側の因子のバランスが重要である。また、HPV関連子宮頸癌の主要な組織型として扁平上皮癌と腺癌が挙げられるが、HPV感染が細胞分化に与える影響はわかっていない。我々は子宮頸癌組織の空間的オミクス解析やオルガノイド培養、iPS細胞などを用いて、HPV感染が細胞分化に与える影響を検討してきた。

本セミナーでは、HPV関連子宮頸部病変の管理の問題点と、最新の研究により明らかになってきたウイルス-宿主相互作用の知見について紹介する。

1. Toyohara Y, Taguchi A, et al. Identification of target cells of human papillomavirus 18 using squamocolumnar junction organoids. *Cancer Sci.* 2024, 115(1):125-138.
2. Kusakabe M, Taguchi A. et al., Cells with stem-like properties are associated with the development of HPV18-positive cervical cancer. *Cancer Sci.* 2023, 114(3):885-895.

2024年9月2日 (月) 17時半~19時

金沢医科大学

医学教育棟 4階 E41講義室 またはWEB

お問合せ 金沢医大 大学院掛 d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp